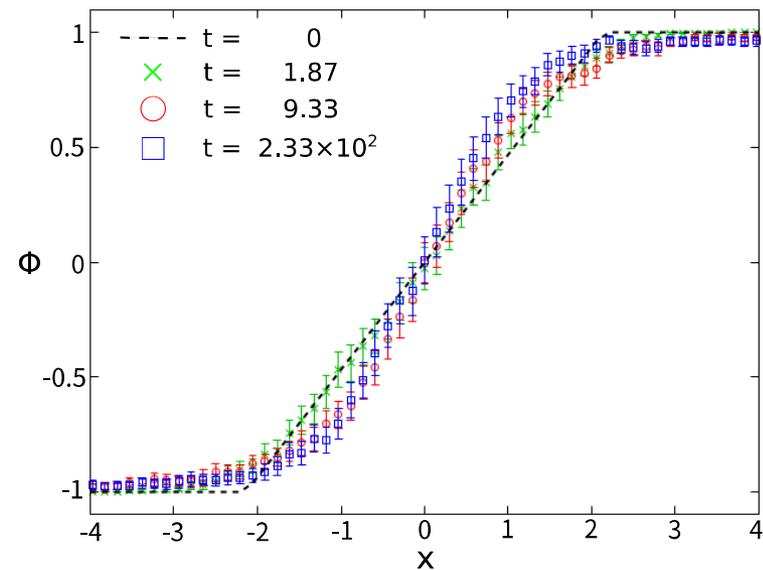
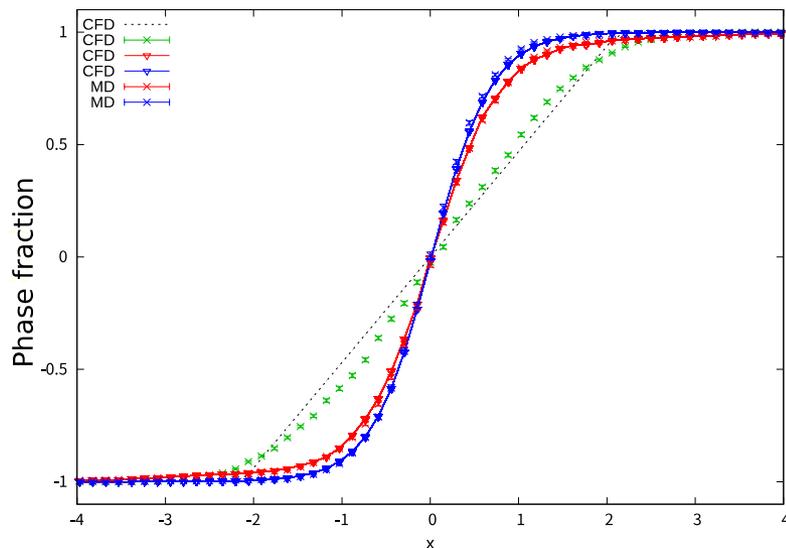


流体界面の微小スケールにおける現象論的モデルに関する研究

大阪市立大学機械工学専攻 大森健史

分子動力学解析と数値流体力学解析を相補的に用い、微小スケールの界面運動を記述する現象論的モデルの抽出を行った。

利用した計算機：OCTOPUS（ノード時間 1K時間，汎用CPUおよびGPUノード）



壁面から離れたバルク部（左図）および壁面近傍（右図）における界面密度分布の時間変化：赤井ら，“接触線近傍での流体界面の易動度”，日本流体力学学会年会，2020.09.18.